

病院概要

当院は慶應信濃町キャンパスから電車とバスで約1時間、横浜市の東端部を構成する鶴見区に位置します。総人口376万人を有する横浜市では市域を7つの方面に分けてそれぞれに中核病院を置いておりますが、当院は鶴見区、神奈川区から成る東部方面地区の高度医療を担っており、両区の人口は合計54万人と、慶應病院が位置する新宿区のおよそ1.5倍にも匹敵します。当院はそこに562床(重症心身障害児(者)施設含む)の施設規模で対応しており、高度であるとともに迅速な病診連携やソーシャルワークにも助けられた極めて効率的な急性期医療が展開されております。

高度で効率的な脳卒中医療

脳血管・神経内科常勤医が8人(内専攻医2人を含む)、脳神経外科、脳血管内治療科常勤医が5人(内専攻医1人を含む)と充実した人員を擁し、これら様々なバックボーンを持つ脳神経診療のメンバーで脳神経当直体制を敷くことで24時間365日のrt-PA療法や血栓回収療法を含む脳卒中超急性期医療を提供するPSCコア施設となっております(2021年3月現在)。救急外来で診察、CT撮影後その場で血栓回収まで完了するハイブリッドCTや、基準を満たしたSCUも稼働しており、年間400例程度の急性期脳卒中を受け入れ年間20例前後のrt-PA投与を行っている他、脳神経血管内治療学会専門医の各務医師、中川医師や脳神経外科の峯医師を中心に年間30例程度の急性期血栓回収療法を行うなど理想的な急性期脳卒中診療を学ぶことができます。

横浜市の認知症疾患医療センター

当院ではMRIはもちろん各種RI検査も院内で施行可能な他、臨床心理スタッフも充実し詳細な心理学的検討も可能です。こうした豊かな人的物的資源を背景に、横浜市の指定する認知症疾患医療センターの一つとして、後藤医師、伊達医師を中心に認知症性疾患の鑑別診断、治療、家族指導や地域への啓発、身体合併症/BPSDへの対処まで幅広く対応しております。当科元部長が慢性疾患医療に携わるくにもとライフサポートクリニックをはじめ地域の専門医、サポート医とも密に連携することで外来再診をスリム化し、認知症診療に必要な一人あたりの診療時間を確保するとともに初診数を増やす(2020年実績171例)ことにもつながっており、希少疾患を含む認知症性疾患の診断、治療からBPSDの入院治療まで一体となった包括的な認知症診療を学ぶことができます。

副院長、神経内科部長、初期臨床研修室長、臨床研究センター長

後藤 淳(慶應義塾大 1988年卒)

日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本神経学会専門医・指導医

日本脳卒中学会専門医・指導医 日本頭痛学会専門医

日本認知症学会専門医・指導医

専門分野:脳卒中、パーキンソン病関連疾患、認知症診療

院長統括補佐

丸山 路之(新潟大 1983年卒)

日本脳卒中学会専門医 日本内科学会総合内科専門医・指導医

労働衛生コンサルタント

専門分野:脳血管障害の診断と治療

(神経超音波検査・脳血流SPECT検査・脳血管造影検査)

脳血管内科部長

笠井 陽介(山梨大 2003年卒)

日本内科学会総合内科専門医 日本神経学会専門医

日本脳卒中学会専門医

専門分野:脳卒中

副部長

小倉 直子(東邦大 2001年卒)

日本内科学会総合内科専門医 日本神経学会専門医

日本脳卒中学会専門医

専門分野:脳血管内科(脳卒中急性期治療・脳血管内治療)

医長、済生会横浜市東部病院横浜市認知症疾患医療センター長

伊達 悠岳(慶應義塾大 2007年卒)

日本内科学会認定内科医 日本神経学会専門医

日本認知症学会専門医・指導医

専門分野:認知症診療

医員

花城 里依(埼玉医大 2012年卒)

日本内科学会認定内科医 日本神経学会専門医

日本医師会認定産業医

専門分野:脳卒中

専攻医

徳安 大輝(慶應義塾大 2018年卒)

忽滑谷 智紀(埼玉医大 2018年卒)